

平成 29 年度

宮田村教育委員会 10 月臨時会々議録

1 開催日時：平成 29 年 10 月 10 日(火) 9：00～10：30

2 開催場所：村民会館 第 1 研修室

3 出席委員

- (1) 長嶋 良子 教育長（以下「教育長」と表記。）
- (2) 篠田 秀児 委員長職務代理者（以下「職務代理」と表記。）
- (3) 鷹野 綾子 委員（以下「鷹野委員」と表記。）
- (4) 古藤 祐巳子 委員（以下「古藤委員」と表記。）
- (5) 伊藤 一幸 委員（以下「伊藤委員」と表記。）

4 欠席委員：なし

5 その他、会議に出席した者の氏名

- (1) 本田 秀樹 教育次長（以下「次長」と表記。）
- (2) 北原 敦 学校係長（以下「学校係長」と表記。）
- (3) 平澤 義章 子育て支援係長（以下「子育て係長」と表記。）
- (4) 本田 留美 生涯学習係長（以下「生涯係長」と表記。）

6 教育長あいさつ

教育長：ご参加いただきありがとうございます。出身は大町で宮田に 17 年前に家を建てました。

下伊那、伊那、駒ヶ根で教育現場を 38 年間務めたが、地元での勤めがない。退職してうめっこらんどに 1 年半務めただけなので宮田のことも教育委員会のことも知らない。教育委員の皆さんは平澤教育長とともに教育委員会を推進してくださった。この 1 年間は教えていただきたいと思うのでよろしくご指導ください。

資料について説明

(1) 新教育委員会制度について

<これまでの教育委員会の課題><教育委員会の改革>

資料に、教育委員会の課題に対し改革が 5 つ挙げられている。①教育行政の責任体制の明確化。すべては教育長が責任を担う。②教育委員の審議の活性化。これについて、教育委員の皆さんにはこれまでの教育委員会を踏まえて活性化するための意見などいただきたいと思う。③迅速な危機管理体制の構築。学校での危機管理体制について皆さんのアイデアがあれば教えてほしい。不審者だけでなくアレルギーやアナフィラキシーへの対応を保育園、学校と連携していかなければいけないと思っている。取り組みについて

のご意見をいただきたい。一番は、地震が起きたときに学校現場、役場はどう対応するのか。各学校が避難所として開設されるが、その場合どのように動けばいいのかマニュアルを作ったのでそれをもとに早急に点検していかなければいけない。教育委員会だけでなく総務課との連携も大事。危機管理面のご意見もいただきたいと思う。④地域の民意を代表する首長との連携の強化。何かあったら村長に即連絡して協力体制を組んで取り組んでいくとなっている。新しい教育委員会としてどんなことをやっていくのか、喫緊の課題として今あげたことに関してどうしていくか、次回ご意見を伺いたい。

#### <教育委員会の仕事>

資料に 19 の仕事が挙げられている通り。

#### (2) 新教育課程全面実施に向けての対応について

①箕輪町は 10 年前から保育園に ALT が入って英語教育が始まっていたので高校進学、大学進学時に相当差が付くのではないかと。小学校でも英語が導入されるので、ALT の確保が何としても重要と思う。

②はっきり申し上げて宮田は情報教育が遅れており、非常に心配している。箕輪町は 10 年前から職員を集めて情報教育の研修も行い、電子黒板が各教室に設置され子どもたちは iPad を使って授業を進めている。iPad は特別支援教育において大変有効で成果を上げている。英語教育の推進プラス ICT への対応をいち早くしていかないと宮田村の先生の PC 状況が最悪で、何が ICT 教育だといわれそう。伊那市はプログラミング教育を推進し始め、全職員上げてプログラミング学習の資質向上のため研修が行われている。

③宮田小の特別支援学級について。特別支援学級の 2 クラス増というのは異常事態だと思う。インクルーシブの教育が推進されており、障がいがあるがなかろうが通常学級で担任がその子にあった支援をしなければいけないと障害者基本法で決まっている。現場では席につかなかったり奇声を発したりする子の対応に追われて授業が進められないということで特別支援学級に入級を進めるケースが多いが、本来自情障の子たちは普通学級で学べる力を付けて退級させていく方向でなくてはならない。このままでは中学校では普通学級より特別支援学級の方が増えていく。それを解消するためにも特別支援学級の教育に対し先生方が力を付けていかなければいけない。宮田小は文科省の研究指定校になって予算がつくそうだが、学校現場では何をどのように取り組んだらいいのか困っていて研究が始められていない。委員の皆さんのアイデアがあったら教えていただければと思っている

④相談体制の一本化について。伊那養護学校の保護者の方から、「もっと早く小学校時代に『きらりあ』の存在などを教えてもらえれば、うちの子はもっと変わっていたのではないか」という発言があったと聞いている。就学、発達相談についてどこに相談すればいいのという意識がある。相談体制を住民課、福祉課、教育委員会と一本化して、本当に困っているお母さんたち、早期発見、早期適切な支援という意味でも相談体制の一本化というのは急務と思う。

⑤学校支援地域本部の設置。○学習支援について。新しい教育課程では参画を願って地域

の教育力を活かすということが挙げられている。他市町村はコミュニティースクールを推進しているが、宮田は特にコミュニティースクールとしなくても村民の方は協力してくれている。例えば英語やプログラミング情報教育の専門性と指導力のある村民にボランティアとして入っていただければ、子どもたちは専門性のある学びができる。人的な面でのアイデアがあったら早急にご紹介いただきたい。現在、学校支援地域本部はできていて文化祭で地域の方から学ぶところで活躍されている。登録されているボランティアの方は100人を超えているが、周知されていない。中沢小、高遠小ではコミュニティースクールをやっている、習字や英語の時間に地域の方に来てもらい、子どもたちは月謝を払わずにプロに教えていただける。地域の教育力をいかに活用していくかが焦点になっていくと思っている。

○環境整備について。部活動でも先生方の多忙化が言われていて、南箕輪村、東部中は一般の方にすべてお願いしている。中学校では専門性のない先生が部活の指導をしなければいけないことも含め、どう進めていくかが課題。

○子どもの安全確保について。ただマラソンをしていたおじさんが不審者として通報されるなど、あまりにも不審者情報が連発した。そうならないように、また、安心安全の家をどう増やしていくのかなど、安全確保という面でもアイデアをいただければと思う。

このように喫緊の課題が盛りだくさんあるが、委員さんのお考えも参考にし学校現場の先生方村の方々の意見等も取り入れながら、今後の取り組みを考えていきたいので何卒よろしくをお願いします。

## 7 議 題

### (1) 報 告

#### 報告1号 教育長職務代理者の選任について

次 長：資料について説明

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条2項、職務代理は教育長の指名により決定することになっているので、そのように決定してよろしいでしょうか。

委 員：了解。

教 育 長：今まで教育委員長を務めて下さった篠田先生に職務代理者をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委 員：はい、いいと思います。

教 育 長：篠田先生、よろしく願いいたします。

職務代理：はい。

教 育 長：篠田先生にご了承いただいたので、職務代理者としてよろしくをお願いします。

## 8 その他

子育係長：日本福祉大学の推薦の件、職務代理者も含め当日は審査をいただきたい。

教 育 長：では、その他なければ、皆さんごに挨拶をお願いします。

職務代理：大役が終わりホッとしていたところではありますが、いきさつ上お受けするのはやむを得ないだろうと思っている。教育長の丁寧なあいさつを伺い、本気でやらなければいけないと感じた。よろしく願いいたします。

鷹野委員：よろしく願いいたします。

伊藤委員：教育委員を務め今年の10月でちょうど一年になる。私はまだ、神戸や兵庫県の仕事が残っているので、ご不便をおかけすることが多々あると思うがよろしく願いします。私は大学教育や公務員のことはよく分かるが、小中学校の教育は良く分かっていない。一年間やってみて、学校の先生は大変だなとつくづく感じている。もっぱら宮田高原や駒ヶ岳担当として何度も登っているので、そちらでの教育委員会は私の担当ということでよろしく願いいたします。

古藤委員：小中に3人の子どもがいるのでいろんな声が聞こえる。現場の先生が大変なのは学校行事に行くたびに感じていた。危機管理では不審者メールがとても多いので気になっている。皆さんで子どもの安全を守っていければと思っている。私もまだ2年目で分からないことだらけなので、いろいろ教えてください。よろしく願いします。

次 長：不審者対応として、見守り隊にはパトロール強化のお願いのはがきを出した。村の対応として、先週から通学時間帯に青パトで回るようにしている

職務代理：不審者はどれくらいで、どんな不審者がいるのか。

次 長：新聞にも出たが、小学生が下校時に県道で車から怒鳴られたことがあった。

鷹野委員：私は新聞を見て、子どもたちがふざけていて怒鳴られたのかもしれない、それなら不審者というより子どもたちの態度が悪かったのかなとも思った。

教 育 長：うめっころんどに泣きながら来た女の子がいたのでどうしたのか聞いたら、怖い目に遭ったというが、具体的には散歩していたおじさんに睨まれただけだった。

古藤委員：子どもも過剰になっているかも。「ダーツの旅」と称した車の声かけの件も子どもの不安になっている。子どもがどこまでを不審者と認識するか。

鷹野委員：赴任したての先生が、障がい者を不審者と間違えたこともあった。

古藤委員：地域ごとにいろんな方がいらっしゃる。子どもたちに認識がなければその人は不審者になってしまう。

職務代理：よく分かりにくいので、この委員会では個人名ははっきり話してもらった方が良い。

教 育 長：情報共有がとても大事。学校の先生にも内々にお伝えした方が良い。分かっていたら子どもたちに安心していいと伝えられる。

古藤委員：見守り隊も帽子では年配の女性がかぶりたがらず、腕章だけでは目立たない。薄暮時も目立つ蛍光のベストにした方が良かった。

次 長：最初ベストも検討したが、着ない人もいるからと、帽子と腕章になった。ご意見いただければ用意できる。

教 育 長：伊那市ではプログラミング教育の研究授業をしたが、先生の研修するところが県にはなく東京に行っていた。新しいことが吸収できる若い人たちに研修の場を与えないと、相当出遅れてしまう。

鷹野委員：箕輪の授業を見せてもらったが、使える先生と使えない先生とでは差が大きい。生徒の方が先を行っている。先生を教育しなくてはいけないと思った。

教育長：情報教育、英語教育、道徳教育と新しいものが増え先生たちも大変。英語は70時間やらなければいけない。

職務代理：ある集まりで、県教委が校長に時間を割り振って工夫しろといったようだが、教員に負担かけて工夫しろとは無理だ。もっと人材を確保できるように文科省に働きかけてほしい。増々超過勤務になってしまうのは問題。

教育長：これで授業時数が増えるとどんな風に時間割を組むのか。下校時刻がこれ以上遅くならないよう前倒しして朝早くするのか。人材としては、特別支援学級に村費の先生が6人いるが、予算が決められているならその有効活用も考えられる。英語専科とかコンピューター専科とか専門的に進めてくれる人を入れてはどうか。読み書きの困難を持つお子さんのための研究が必要で、駒ヶ根市は4年前、伊那市は3年前に、1、2年生全員の描画、吃音、聴音などの実態調査を行い、調査結果の程度により放課後に個別指導した。2、3年生で躓きを取ってやらないと「どうせできない」と学習意欲が落ちたまま高学年になり、ついていけずに特別支援学級に入ることになる。

伊藤委員：今度買ったタブレットにソフトは入っているのか。

次長：学校の要望でソフトも何種類か入れ、全部セットして納品されている。

職務代理：先生が忙しすぎるので、部活は学校の先生はやらせないくらいにしたほうがいいのか。

鷹野委員：代わりに部活を教える人がちゃんとした人ならいいが、昔ながらの根性ものでは問題。

伊藤委員：ボランティアで回るかどうかを整えることが先だと思う。

古藤委員：部活をやりたい先生もいるので難しいところ。

教育長：いろいろお話しいただきありがとうございます。以上を持ちまして臨時の教育委員会を終わりにしたいと思います。よろしいでしょうか。

委員：了解。

教育長：次回、宿題を出しましたがよろしく願いいたします。

・次回定例会：10月25日(水) 13時30分 村民会館 第1研修室